



有朋自遠方来

(左より) 吉川館長、ド
リニャーラヴォー・ルーヴル
館長、大高氏

昨年12月15日、新任のルーヴル美術館長ミッシェル・ドリニャーラヴォー氏(37歳)が、大阪日仏協会事務局長大高順雄氏とともに来館されました。今回の来日は大阪日仏協会などの招きによるものですが、当館の見学は前任のルーヴル美術館長の強い推めによるものだそうです。吉川館長のフランス語の案内で、開催中の「中国明清時代の美術」を見学され、国宝「松浦屏風」を特別に閲覧されました。その後、美術研究所のコンピュー

タ・システムを見学され、予定の時間を1時間もこえる熱心さでした。「フランスでは国内の美術館の美術品情報のデータ・バンク化を行っています。大和文華館のような画像をともなったものではありません。特にコンピュータの画像処理による美術研究はフランスではまだ行われておらず、驚きです。新しい試みに期待します。」とドリニャーラヴォー館長は述べられました。

季刊 美のたより No.74

昭和61年2月20日

発行 大和文華館